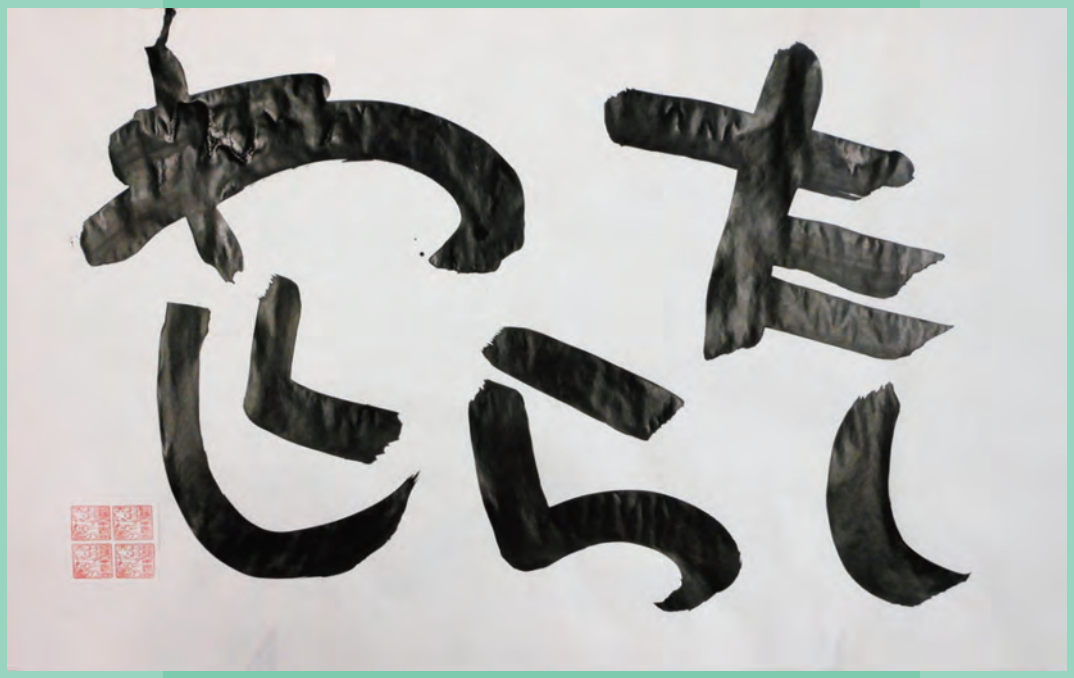
支部活動等助成事業報告書

平成 30 年度



一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会

はじめに

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会（以下、大阪生活サポート協会）に入会する会員（「生活サポート総合補償制度」に加入する知的障がい児者・自閉症児者、以下「障がい児者」という。）の所属する支部（施設・事業所等）を対象に、平成 22 年度から当大阪生活サポート協会の目的に適った事業実施に対して「支部活動等助成事業」を実施している。平成 22 年度から 30 年度までの申請支部延数は 551 支部、その中から 240 支部に助成してきた。

平成 29 年度からは、これまでどおり支部が実施する事業への助成に加えて、新たな視点で、複数の支部が、あるいは複数のブロック（地区）が協働して実施する事業に対しても助成の幅を広げている。

地域の障がい児者の暮らしを支える事業や人材育成に寄与する事業等の実施は、一法人あるいは一事業所での実施には限界性があり、複数の事業所があるいは地区全体で取り組む事業の有効性が考えられるので、協働事業の推進を図りたい。協働事業の実施を通して、地域でのネットワークづくりや法人間の交流の機会になることを願っている。

平成 30 年度に会員の家族及び支部を対象に実施した「アンケート調査」の結果をみると、この「支部活動等助成事業」に関する認知度及び期待度は高く、特に小規模の法人等においては事業運営面での一助になっている面がみられた。また、防災関係、権利擁護、成年後見制度（家族等対象）など研修の必要性を強く感じている事業所等が多くみられた。

今後の助成事業の新たな取り組みとして、次のようなことを考えている。

① 防災に関しての関心度は高く、地域の事業所間での連携・協働の実践を重ね、地域性に配慮した仕組みづくりの構築など、助成事業の重要な取り組みの一つとして推進する。

② 第２種社会福祉事業の経営・運営に携わるＮＰＯ法人・株式会社等の事業所等からの意見として、研修の機会の設定などの希望があり、地域密着型のそれぞれのニーズに対応できる助成事業のありようを検討・実施していく。

③ 会員の所属する支部で利用者支援に悩む支援者への支援策の一つとして、「コンサルテーション事業」実施に対する助成をする。

当大阪生活サポート協会は障がい児者及び家族の暮らしを各種事業と補償制度により支え続けていきたいと考えている。

会員が所属する支部におかれましては、当大阪生活サポート協会の事業の一つである「支部活動等助成事業」の活用を図り、地域で暮らす障がいのある方々ひとり一人が権利の主体者として「その人らしく」生きることのできる地域づくりに、それぞれの立場で「今できること」から実践していただきたいと切に願っている。

本事業報告書を是非ご覧いただきまして、貴支部での取り組みの参考になれば幸いに存じます。

一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会
理事長　安本 伊佐子

目次

はじめに

Ⅰ　支部活動報告

１（社福）心愛	心愛塾作業所 ……	1
２（社福）路交館	ほっとコミュニティうぃる ……	1
３（社福）堺あすなろ会	堺あすなろ園 ……	2
４（社福）風の会	風の会 ……	3
５（社福）月の輪学院	月の輪学院 ……	5
６（社福）清光会	和泉の里 ……	5
７（NPO）ダ・カー歩	ダ・カー歩 ……	7
８（社福）水仙福祉会	淡路こども園 ……	8
９（社福）障友会	堺みなみ ……	9
１０（社福）ゆうとおん	ゆうとおん ……	9
１１（社福）全電通近畿社会福祉事業団	愛の家「きぼう」……	10
１２（社福）池田芽ばえ福祉会	東山作業所 ……	12
１３（社福）北摂杉の子会	ジョブサイトひむろ ……	13
１４（社福）大阪手をつなぐ育成会	支援センターねぎぼうず ……	14
１５（社福）いずみ野福祉会	梅の里ホーム ……	14
１６（NPO）活動センターいっぽ	活動センターいっぽ ……	16
１７（社福）大阪福祉事業財団	あさひ希望の里 ……	16
１８（社福）障友会	デイセンターフレンズ ……	18
１９（社福）育成福祉会	総合支援センターさくら ……	19
２０（社福）四幸舎和会	くりのみ園 ……	20
２１（NPO）リバティ・のぞみ	てんとう虫 ……	22
２２（社福）大阪聴覚障害者福祉会	あいらぶ工房 ……	23

２３（NPO）虹の会　れすと …… 24
２４（社福）路交館　うぃず滝井 …… 25
２５（社福）信貴福祉会　ひばり作業所 …… 26
２６（社福）路交館　桜の園 …… 27
２７（社福）いずみ野福祉会　シュレオーテ …… 28
２８（社福）摂津宥和会　摂津市立ひびきはばたき園 …… 29
２９（NPO）ネクスト　ネクスト …… 30
３０（社福）大阪府障害者福祉事業団　地域生活総合支援センターきらら … 31
３１（社福）フォレスト福祉会　風の森（柏原作業所連絡会）…… 33
３２（社福）そうそうの杜　そうそうの杜 …… 34
３３（社福）ユウの家　チャレンジハウスどんどん …… 35
３４（社福）バオバブ福祉会　えるで …… 36

Ⅱ　資料

平成 30 年度支部活動等助成事業実施要項

平成 30 年度支部活動等助成事業実施支部一覧

大阪生活サポート協会の理念と事業

● 表紙作品　日当瀬 綾乃（おおざとの赤いやね）

平成３０年度支部活動等助成支部事業報告

（各支部報告は原文のまま記載）

Ⅰ　支部活動報告

１　支 部 名：　心愛塾作業所

① 実 施 日：　平成 30 年 9 月 16 日（日）

② 実施場所：　枚方駅前　T サイト　8 階　ミールトゥギャザー

③ 対 象 者：　利用者 28 名、職員 24 名　保護者 22 名
　　世話人 13 名　役員等 12 名　　計 99 名

④ 実施概要：　「設立 15 周年記念の集い」の開催

社会福祉法人心愛を平成 15 年 9 月 30 日に設立し、おかげさまで今年度は 15 周年を迎えることが出来た。そこで利用者を中心に日頃お互いに交流することのない方々（保護者・職員、世話人・役員等）と 15 周年のお祝いを会食を含め集い、更にこれからの事を話し合う機会を作ることを目的に開催した。

⑤ 成　　果：　集いの当日は、初めて T サイトの 8 階に来たというメンバーが多く、少し改まった服装に緊張感と喜びを交えたメンバーの様子を職員・世話人さん達は温かく見守り、穏やかに 2 時間ほどの交流の場を美味しい食事を頂きながら持つことが出来た。枚方市長からもお祝いのメッセージを頂き皆にとって心に残る記念の集いとなった。　開会の理事長の言葉、後援会代表の乾杯の音頭にもありましたが、次の 20 周年を皆でまた集えるようにこれからも力を合わせて頑張っていこうと心新たにすることが出来た。

⑥ 収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	会食代	500,000
自己資金	400,000		
計	500,000	計	500,000

２　支 部 名：　ほっとコミュニティうぃる

① 実 施 日：　平成 30 年 9 月 14 日（金）～15 日（土）

② 実施場所：　和歌山県白浜・みなべ方面

③ 対 象 者：　利用者 17 名、職員 8 名　計 25 名

④　実施概要：　「一泊旅行の実施」

日頃一緒に仕事をしている仲間との交流や、したいことを仲間と一緒に実現する。

⑤　成　　果：　初日の白浜アドベンチャーワールドでは、事前に各班の利用者それぞれどこを周るのかを考えて、それぞれの意見を取り入れたり話し合う場を設けて行動しました。また、夜の宴会では出し物を出したい人たちを募って、やりたい人がみんなの前で披露して、率先して取り組んでもらい他の方はそれを見て楽しむことができました。2 日目は、和歌山の観光でとれとれ市場、海鮮せんべえ南紀、湯浅醤油蔵などを訪れて、各々がお土産などの買い物を楽しんでおられました。

今回の旅行では仕事以外で、楽しいことや「自分がしたいこと」が出来て、普段あまり見れない笑顔がたくさん見れたり、また来年も行きたいという声がたくさんでました。　今後の展望としては、なかなか仕事の中では良いところが発見しづらくても仕事以外での場面で良いところが発見される機会にもなると思っています。

利用者の良いところを見つけていく機会として、このような宿泊行事を通してそれぞれが新しい発見の場になれればと、願っています。

⑥　収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	中型バス料金	129,600
自己資金	447,868	宿泊料金	273,750
		施設入園料	56,250
		高速料金	19,000
		諸費用（旅行保険等）	29,160
		昼食代	27,000
		雑費	13,108
計	547,868	計	547,868

3　支 部 名：　堺あすなろ園

①　実 施 日：　平成 30 年 10 月 12 日（金）

②　実施場所：　堺あすなろ園

③　対 象 者：　利用者 55 名、職員 20 名　計 75 名

④　実施概要：　「あすなろフェスタ」の開催

障がい程度や班という縛りを越えて施設全体で秋の一日を楽しむ。

⑤ 成　　果：　職員手作りのスマートボールに、ヨーヨーつり・わくわくあみだくじなど。夜店のような模擬店が並ぶ中、皆さん童心に帰って、ゲームを楽しみました。9月中旬に助成金の決定通知を頂いたので、景品の量を増やしたり、お弁当のグレードを上げることが出来ました。皆さん、ゲットした景品をお土産に持ち帰って、ご家族にフェスタの話をされたようです。午後の部のセシリアさんによる音楽パフォーマンスも、みんなで一緒に盛り上がるような形で、ちょっと肌寒い日でしたが、会場内は笑顔と活気で溢れていました。普段、施設では何も口にしない利用者さんが、「今日は、食べてくれたよ！」という嬉しい報告もありました。“お祭りムード”の力ってすごいですね。

準備段階から職員間の交流も活発になり、みんなで作り上げた「あすなろフェスタ」は大成功でした。サポート協会の助成事業に心より感謝申し上げます。

当施設の利用者さんも高齢化が進み、刺激の少ない毎日になりがちですが、職員のアイディアと行動力で、利用者さんに楽しみを提供する事ができればと思います。

⑥ 収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	ゲーム材料、景品代（模擬店）	16,740
自己資金	12,337	景品（お菓子類）	15,357
		セシリア出演料	5,000
		パフォーマーへのお礼（授産製品）	1,520
		お弁当代	64,000
		おやつ代	9,720
計	112,337	計	112,337

4　支 部 名：　風の会

① 実 施 日：　平成 30 年 10 月 8 日（月）・11 日（木）・15 日（月）・18 日（木）

② 実施場所：　法人施設　生活支援センター1 階

③ 対 象 者：　利用者・職員　計 50 名

④ 実施概要：　「障がい者の肥満予防対策運動プログラム」の実践事業

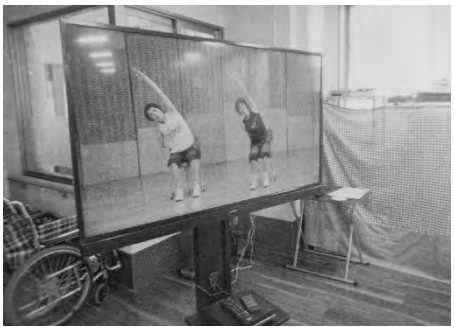
身体を動かす習慣を身につけて、肥満にならないように予防していくことは健康づくりのために大切なのではないかと考える。そこで楽しみながら身体活動、運動習慣を獲得し日々実践していくことができるような運動プログラムを提供することを目的とする事業。概要として立位で行う運動プログラム「たのしいダンス」と座位で行う「すわってストレッチ」約5分の動画を見て実践。「たのしくダンス」は前屈、後屈両手の拳上、各種片足でのバランス、しゃがみこみを取り入れスムーズに行え肩甲骨、体幹、股関節、足関節を多く動かす内容で聞くだけで体を動かしたくなるようなダンスミュージックの音楽で「すわってストレッチ」は身体の不自由があるかたも取り組むことができ椅子に座って行え安全に取り組め、ある程度の運動量を確保でき動的ストレッチングとし、優しい音楽に合わせておこなえました。週2～3回を継続することで運動習慣を身につけてもらい肥満対策の健康づくりをしていく。

⑤ 成　　果：　助成事業で購入させていただきました大型テレビ一式のおかげで大画面の映像を流せることで50数名全員がどこからでもしっかり画面を見ることができ障がい者向けの簡単な動きでダンスができ、楽しみながら踊ることができました。
簡単な動きのダンスでしたが障がいをもつ方々には（職員も）けっこうな運動量になり、額に汗がにじむほどで音楽にあわせてリズミカルで自然にからだを動かしている感じで無理なく笑顔で踊っていました。また2回目、3回目と開催していく中で飽きずにしっかり踊れるようになってきました。ダンス終了後は口々に「このダンス痩せるわ」とあちこちから声がでており、日頃運動不足で悩んでられる方が真剣にダンスに取り組まれている姿が印象的でした。

今後も継続していくことで運動することを習慣づけていけそうで健康づくりには欠かせないアイテムの１つになっています。

今後の展望

・身体を動かすことへの抵抗がなくなり自然に取り組めるようになる。
・日常の習慣としてリフレッシュ効果になる。
・いろんな障がいに合わせたダンスプログラムになっているので無理なく身体を動かせるので長く続けていくことができる。
・肥満対策のアイテムとしてずっと使用できる。



⑥ 収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額

助成金	50,000	50 型液晶テレビ	45,360
自己資金	7,590	DVD プレイヤー	3,080
		テレビスタンド	9,150
計	57,590	計	57,590

5　支 部 名：　月の輪学院

①　実 施 日：　平成 30 年 10 月 24 日（水）

②　実施場所：　グループホームあじさいの家芝生広場

③　対 象 者：　グループホーム利用者 22 名、障がい児入所施設児童 45 名　計 67 名

④　実施概要：　「世代間交流の場」の設置

障がい児から、高齢者までの法人内施設利用者の世代間交流を図り、共に支え合い、生きがいある生活を創生する。

⑤　成　　果：　バーベキュー祭りなどを通じて、ガーデンテーブルセットが非常に役に立った。今後は、幼稚園児のお芋まつりや、年末には法人全体行事でお餅つき大会があり法人内のグループホームや、認知症の高齢者及び地域の人たちとの交流に、芝生広場を活用の予定です。

さらに芝生広場を使ったゲーム大会（ボッチャやゴルフゲームなど）を通じて、認知症高齢者や幼稚園児との世代間交流を図りたいと考えており、寄贈していただいたガーデンテーブルセットの活用に夢が膨らむばかりです。本当にありがとうございました。

⑥　収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	50,000	ガーデンテーブルセット 2 台	108,000
自己資金	58,000		
計	108,000	計	108,000

6　支 部 名：　和泉の里

①　実 施 日：　平成 30 年 9 月 17 日（月）

②　実施場所：　泉佐野文化会館（エブノ泉の森ホール・大ホール）

③　対 象 者：　一般　1,002 名

④　実施概要：　「南泉州和太鼓の集い」への参加

ホール内では、南泉州地区の和太鼓団体 4 団体と日本太鼓財団大阪府支部有志の和太鼓団体 3 団体。友情出演として泉佐野の伝統文化であるだんじりの祭囃子を演奏（上之郷中村青年團)。特別ゲストにプロの和太鼓団体（蓮風 RENPU）と元ザブルーハーツドラマー梶原氏による特別コラボでの演奏。ホワイエでは、泉佐野市の障がい者施設の物販販売。文化交流のため大阪トルコ日本協会の協力を得て物販販売を行った。

⑤　成　　果：　台風 21 号の影響で、南泉州和太鼓の集いに関わる殆どの方が被災者となり「開催することができない」と悩んでいたが、出演団体から「こんな時だからこそ開催しましょう」とお声掛けを頂き、開催を決定した。大ホールのキャパからすると満員とはいえないが、心のこもったイベントになり、来場者も出演者も会場が一体となり、感動し涙を流した。また障がいがあるない関係なく出演者同士の交流、販売者同士の交流があり、今後の活動に活きる繋がりができ、更に障がいへの理解を深める啓発にも繋がった。

「清光会和太鼓韻」は、法人の全面バックアップのもと障がい者への理解、自立、人権などをテーマに和太鼓演奏を通じて地域交流や地域貢献の活動を主とし、清光会和太鼓韻で活動する障がいのある方々が施設外で和太鼓演奏をすることにより、不特定多数の方からの評価をいただくことによって、自己肯定感を高め、就労移行、グループホームへの移行等の実現に努めたい。

また、この活動を広げ他施設の方々へも、洋々な分野で活動できることを見て頂き、共感、賛同が得られるように活動を続けていきたい。

⑥　収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	会場費	497,312
泉佐野市補助金収入	500,000	人件費	210,000
自己資金	325,312	ポスター等印刷費	162,000
		賃借費	56,000
計	925,312	計	925,312

7　支 部 名：　ダ・カー歩

① 実 施 日：　平成 30 年 10 月 18 日（木）～19 日（金）

② 実施場所：　蒜山高原・玉造温泉

③ 対 象 者：　利用者 50 名、職員 21 名　計 71 名

④ 実施概要：　「研修旅行」の実施

目的　① いつも従事している仕事以外のことを学ぶ。

② 一日を通して全員で過ごすことで、利用者同士の協調性の向上を図る。

③ 普段、見る事の出来ない利用者のライフスタイルを観察する。

④ 毎日、仕事を頑張っているので、余暇の充実を図り楽しむ。

⑤ 成　　果：　10 月 18 日　定刻通り 2 台のバスに分かれて出発。途中、加西インターにて休憩、ヒルゼン高原センターに着き昼食後、各班に分かれてジョイフルパークでアトラクションやゲームコーナーで自由に楽しんだ後、ホテル玉泉にて夕食・宿泊。大浴場にての温泉を堪能し、夕食時に職員主催での催しで利用者全員が景品をもらい大変好評でした。

10 月 19 日　こちらも定刻通り出発。堀川遊覧船に乗船し松江観光。初めて小舟に乗った利用者さん達は、嬉しそうに観光されていました。その後、境港さかなセンターにて昼食後、水木しげるロード散策。天気も雨模様でしたが、帰途につくまで晴れてスムーズに観光できました。集団で行動する時、他の方に迷惑のかからないような行動をとる事など、色々と学べた旅行になり、当初の目的も果たすことが出来ました。

⑥ 収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	宿泊費用	854,130
自己資金	19,657,880	貸切バス費用	636,400
		通行料	67,520
		観光入場料	173,430
		昼食費	228,420
		旅行保険	21,300
		企画手配手数料	76,680
計	2,057,880	計	2,057,880

8　支 部 名：　淡路こども園

① 実 施 日：　平成 30 年 10 月 13 日（日）

② 実施場所：　淡路こども園　施設内及び園庭

③ 対 象 者：　淡路こども園通園児及びその家族と淡路子ども園卒園児及びその家族

計　42 名

④ 実施概要：　「成年後見人についての勉強会と交流会」の開催

勉強会や行事などをきっかけに、淡路子ども園の在園児と卒園児の保護者が交流する機会を持ち、乳幼児から成人期までの縦のつながりを作って、お互いに相談しあう等、顔の見える関係を築くことを目的に開催。

⑤ 成　　果：3～24 歳の子どもの保護者が参加した。乳幼児の保護者には“成年後見制度”という言葉を初めて聞く人も多かったが、将来を見通して、今からいろんなことを考えるきっかけになったと、とても好評であった。また、今回の目的としては、年代を超えて縦のつながりを作りたい、というのが大きかったが、父親同士で連絡先を交換し合う等、何かのイベントがなくても、月 1 回くらい集まって話をしよう、集まろう、という流れができた。先輩の保護者から通園のグループ相談に参加して、自分たちの経験を伝えていきたいという声が上がり、今後実施していくことになった。
淡路こども園は家族支援とライフサイクルの視点に立った支援を大切にしているが、親同士のつながり、支え合いを援助していくことが、将来に向けて大きな力になると実感している。今後とも、このような取り組みを継続して行っていきたい。

⑥ 収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	50,000	講師謝礼	20,000
自己資金	2,963	講師手土産代	2,000
		交流会食材費	10,219
		おやつ代	6,000
		スタッフ T シャツ代	8,420
		通信費（切手代）	4,100
		備品代	2,224
計	52,963	計	52,963

９　支 部 名：　堺みなみ

①　実 施 日：　平成 30 年 10 月 4（木）

②　実施場所：　京都水族館、京都鉄道博物館

③　対 象 者：　利用者 73 名、職員 27 名、計 100 名

④　実施概要：　「秋の日帰りレクリェーション」の実施

⑤　成　　果：　雨予報で始まった日帰りリクリエーションでしたが、実際には傘の出番も少ない 1 日で無事に終えることができました。施設全体での外食は「京都ぽーくの緑茶しゃぶしゃぶ御膳」で京都らしさを満喫していただきました。また、利用者の皆さんには事前に水族館、鉄道博物館のどちらに行くかを選択していただいており、職員の予想と異なる選択をされた方も中にはいらっしゃる等、様々な発見がありました。当日は他の観光客も多く、ややタイトなスケジュールになった部分もありますが他の観光客に配慮して観覧・買い物することにより、社会性を養う機会になったのではないかと考えます。

皆さんからも「楽しかった」「良かった」などの声をいただくことができ、また次年度以降もより良い日帰りレクリェーションを企画していきたいと思います。

この度は助成をいただき、ありがとうございました。

⑥　収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	大型バス代	336,960
自己資金	664146	通行・駐車料	46,680
		食事代	211,680
		入場料	80,990
		諸費用（旅行保険・取扱料）	61,152
		添乗員経費・食事代、その他	26,684
計	764,146		764,146

１０　支 部 名：　ゆうとおん

①　実 施 日：　平成 30 年 11 月 10 日（土）

②　実施場所：　ゆうとおんホープ内・フリースペースありありす

③ 対 象 者： ゆうとおん利用者・こども食堂利用者・まちかどデイハウス利用者
西群保育所園児さん・ゆうとおん移動支援事業利用者・他 地域住民 吾亦紅（他事業所：たこ焼きの販売）のみなさん 風の森（他事業所）のみなさん

④ 実施概要： 「ゆうとおん祭」の開催

ちいき食堂をしている事からも、地域に住む子どもや住民の方との交流を持ち、その機会を得て存在を知ってもらう事を目的とする。

⑤ 成 果： 今回高齢の方のまちかどデイハウス利用者の方の作品や地域の西郡保育所の園児さんの作品もお借りして作品展を開催、作業所に足を運んでもらう機会になりました。普段は場所や名前だけは知っていても中で何をしているのかわからないという感想を持った方が地域には多くおられると思います。付け加えて障がい当事者の方とも日常関わりがないと敬遠しがちになります。そういった周囲の人々の見え方のズレを最小限なくしたいという思いで、今回のゆうとおん祭を開催し同じ地域のいろいろな年齢層、障がいのある人、ない人が近くでたわいない話をする機会作りを開催出来た事が成果だと思います。

交流という意味で、今後はお互いのイベントに参加しあえたら良いと思っています。また、ちいき食堂、手話教室、デッサン教室なども開催しているので足を運んでいただき開催した場所を活用してもらう事と、発信する側だけでなく声をかけてもらえたり場所の利用など双方に発信し合える関係になっていけばと思います。

⑥ 収支報告：

＜収入＞ ＜支出＞ （円）

項目	金額	項目	金額
助成金	50000	模擬店関係備品	116,882
自己資金	49,782	外部謝礼（１団体）	20,000
模擬店売上	37,100		
計	136,882	計	136,882

１１ 支 部 名： 愛の家「きぼう」

① 実 施 日： 平成 30 年 11 月 3 日（土）

② 実施場所： 関西サイクルスポーツセンター

③ 対 象 者： 入所児童 12 名 支援者 10 名 計 22 名

④　実施概要：　「児童交流会」の実施

安全に自転車を練習する機会を提供すると共に、様々な自転車やアトラクションに乗り、みんなで体を動かして楽しむ。また、昼食時は、バーベキューで交流を図る。

⑤　成　　果：今回、毎月行われる子どもたちによる子ども会議から「全児童で外出したい」との声が上がり、児童部全体で楽しめる外出が検討される中、大阪生活サポート協会の助成事業により、早々に実施することが出来ました。　普段、自転車に乗る機会が殆どなく、自転車に乗ったことがない児童もいる中、全児童に自転車を知ってもらい練習する機会を提供することができ、昼食にはバーベキューもできる「関西サイクルスポーツセンター」への外出が企画されました。

日増しに秋の深まりを感じられる季節となり、事前学習を行い待ちに待った当日を迎え天気にも恵まれ、車中では、和気あいあいとしたとてもよい雰囲気でした。

到着すると、全児童が目をキラキラと輝かせ、昼食までの間、みんなで施設内を散策しました。昼食は、みんなで協力して肉や焼きそばを焼いたり、取り皿に取り分けるなど、交流を図りながら美味しくいただきました。

午後からはサイクリングスタジアムで自転車に乗る練習をしました。補助輪のない自転車にチャレンジする児童や変わり種自転車に乗合う児童、不思議な動きをする自転車に戸惑っている児童達の姿は微笑ましく、終日、のびのびとみんなで楽しむことができました。

帰りの車中では「また、みんなでいつ行ける？」「ものすごく楽しかった！」等の声があり、全児童がにこやかな表情でした。児童部の絆が深まり、良い思い出となりました。児童の思いを受容することができた今回の余暇活動は、有意義な活動となりました。　今後も、様々な活動を行い、体験を積み重ね、助け合い・支え合い・思い合える児童部を構築していきたいと思います。

⑥　　収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	50,000	駐車場代	1,500
自己資金	11,513	入場料、パス代	42,400
		バーベキュー場使用料	4,500
		バーベキュー材料費	13,113

計	61,513	計	61,513

１２　支 部 名：　東山作業所

① 実 施 日：　平成 30 年 10 月 27 日（土）

② 実施場所：　社会福祉法人池田芽ばえ福祉会　東山作業所

③ 対 象 者：　地域住民、福祉事務所、利用者、家族、ボランティア、職員　約 250 名

④ 実施概要：　「東山作業所まつり」の開催

地域開放、地域交流を目的に毎年開催。地域の太鼓集団をオープニングに迎え当事者ダンスや車椅子のお笑い芸人などの出演ステージ、飲食の模擬店やゲームコーナー、復興応援物品販売、さをり織りなどの自主製品コーナー、フリーマーケットなどの実施。

⑤ 成　　果：　当日は天候に恵まれ、予定通り野外でステージ披露、模擬店、ゲームコーナー、施設紹介の啓発パネル、講演会ブース、屋内では自主製品作品のさをり織り製品、手作り品の販売、被災地復興応援物産販売、日中活動で製作した利用者の作品展示を実施することができました。多くの来場者があり、事前に利用者と共にポスター掲示や地域小学校、保育園、住民へのチラシ配布など広報活動の成果がみられました。また、高校生や地区福祉のボランティアの方々も多数協力いただき交流を深めながら会場運営をすすめることができました。

事業所を知っているが中には入ったことがない、障がい者と接点がないといった方がまつりを通して親子で楽しんだり啓発パネルで日中活動の様子を知る機会となりました。プログラム最後のラッキー抽選会では景品を前にたいへん盛り上がりました。助成していただき、おかげさまで充実したまつりを取り組むことができました。

今後も、地域に根差した事業所を目指してコミュニティとも関係を保ちながら障がい者の理解の推進を図っていく。また、来年度は 20 周年を迎え規模を拡大しての実施を予定しています。

⑥ 収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	ステージ出演料	70,000
自己資金	172,349	音響設置費	32,400

		通信費	13,236
		ボランティア保険	6,598
		模擬店食材料費	56,559
		催し物材料代等	10,678
		ステージ景品代	49,872
		運営費（消耗品等）	30,825
		啓発・広報費	2,181
計	272,349	計	272,340

１３　支 部 名：　ジョブサイトひむろ

① 実 施 日：　平成 30 年 10 月 17 日（水）

② 実施場所：　杉の子農園

③ 対 象 者：　利用者、家族、職員、地域住民等　約 60 名

④ 実施概要：　「第 7 回杉の子農園収穫祭」の実施

⑤ 成　　果：　今夏の酷暑と台風の影響で、杉の子農園始まって以来の不作となり、収穫祭自体の開催も危ぶまれましたが、毎年恒例の行事でもあり、皆さんも楽しみにされていたため、規模の縮小や、開催方法を工夫することで、どうにか実施にこぎつけることができました。当日は風があったものの、好天に恵まれ、参加されたご利用者も、普段、畑作業に関わっておられる方々を中心に、収穫（サツマイモ、ナス、ネギ）や、それらで調理した、焼きイモ、焼きそばを食され、それぞれの形で楽しむことができました。今後の展望としては、第 8 回となる来年度は、今年度の結果を省みて、より良い形でのリニューアルを検討しております。

ご利用者、保護者、地域にお住まいの方々、職員が一同に会して実施する、数少ないイベントのため、法人理念「地域に生きる」の具現化のため、今後も継続して取り組でいきたいと考えております。

⑥ 収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	レンタル器材	59,566
自己資金	2,425	食材費	5,347
		容器、洗剤等	2,364

		タープ関係	16,573
		収穫用農機具	12,423
		調理器具、調味料	6,152
計	102,425	計	102,425

１４　支 部 名：　支援センターねぎぼうず

① 実 施 日：　平成 30 年 11 月 22 日（木）

② 実施場所：　神戸方面

③ 対 象 者：　利用者 13 名　家族 5 名　職員 5 名　計 23 名

④ 実施概要：　「日帰り旅行訓練」の実施

⑤ 成　　果：　公共の施設を見学し、利用することにより、マナーやルールを学び、見聞を広げるために実施。神戸方面（友清柿園：柿狩り/食べ放題、三田ホテル：昼食バイキング、めんたいパーク神戸三田：工場見学/ショッピング）利用者・家族共に行程を楽しみ、新しい体験を通して十分にマナーやルールを学び、見聞を広めることができた。旅行に参加する利用者に自己負担分を徴収しますが助成金の利用により利用者負担が軽減できた。

今後も、実施日、場所などを利用者・家族・職員と相談しながら、良い経験ができるよう検討していきたい。

⑥ 収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	貸切バス・通行料	129,030
福祉バス借上補助金	51,500	柿狩り	16,100
自己資金	83,696	昼食代	52,164
		諸費用	37,902
計	235,196	計	235,196

１５　支 部 名：　梅の里ホーム

① 実 施 日：　平成 30 年 9 月 18 日（火）～19 日（水）

② 実施場所：　石川県　山中温泉

③ 対 象 者：　利用者 49 名　職員 52 名　計 101 名

④ 実施概要：　「利用者一泊旅行」の実施

梅の里ホームの利用者の一泊旅行は毎年の恒例行事であり、外出や旅行の機会も限られている利用者にとっては、貴重な体験の機会となっています。また、今回は始めて石川県までの長距離バス旅行でした。

⑤ 成　　果：　障がいの重度化等により、旅行は年々近い場所となっていましたが、今年度は思い切って遠方を選んだことにより、行き先が遠くてもゆったりと、体への負担も少なく楽しい旅行を提供できることがわかりました。宿泊先では浴場までに階段があり、ホテル側にスロープを付けていただきましたが、ほとんどの利用者が車椅子を利用しているため、その様子から宿泊先のスタッフの方が汗一杯になって、移動の補助をしてくれました。また、重い障がいを持つ人達が旅行を楽しむ姿や、それを支援している職員の様子を見て、宿泊先のスタッフより「利用者の皆さんも職員さんも楽しんでいて凄いですね、感動しました。」等の言葉を頂きました。重い障がいのある人達が、地域で安心してクラスには様々な困難がありますが、旅行先でのこのような交流は、私たちにとって大きな喜びとなりました。生活施設で暮らす人たちにとって、外出や旅行する機会は少ないのが現状です。特に梅の里ホームのある地域では、入所施設を利用している人はガイドヘルパーの利用が基本できないため、より外出が困難となっています。今回、石川県への旅行を行ったことにより、外出への自信や期待を職員利用者ともに高めることが出来たのではないかと考えています。これからの社会との交流に対する支援に幅広く生かしていきたいと思います。

⑥ 収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	大型リフト付きバス	810,000
自己資金	2,829,710	宿泊代	1,277,630
		食事代	526,650
		乗務員・添乗員費用	120,960
		駐車場代	122,070
		諸経費	72,400
計	2,929,710	計	2,929,710

１６　支 部 名：　活動センターいっぽ

① 実 施 日：　平成 30 年 11 月 5 日（日）～6 日（火）

② 実施場所：　（株）伊賀の里　モクモク手づくりファーム

③ 対 象 者：　利用者 16 名　職員 12 名　計 28 名

④ 実施概要：　「農業公園体験型一泊旅行」の実施

⑤ 成　　果：　台風 24 号の影響により、日程、内容に変更がありましたが 2 日間続けて、「モクモクファーム」に滞在することになり、2 日目に「パン作り体験」もすることができ、結果的により充実した旅行となりました。1 日目は、ウインナー作りと小動物とのふれあい体験でした。ウインナー作りは、全て初めての体験で、皆さんワクワクした表情で、ウインナー作りを楽しまれていました。2 日目の早朝には、仔牛にエサをあげたり、乳しぼりをするなどの貴重な酪農体験をされた利用者さんは、疲れた様子もなく満足した表情で戻って来られました。2 日目に全員で参加した「パン作り」では、焼き上がったパンをお土産として帰ることができ、家族の皆さんにも大変喜んで頂きました。今回初めて、旅行に参加された利用者さんとは、様々な場面を通して、職員との距離を縮めることができたと感じました。様々な体験の中で、普段とは違う利用者さんの様子に接することができました。その経験や感想を職員間で共有し、家族さんにも伝え、今後の日々の取り組みに生かしていきたいと思います。

⑥ 収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	貸切バス代（通行料含む）	147,220
自己資金	461,171	食事代	139,229
		宿泊費	201,282
		手づくり教室代	73,440
計	561,171	計	561,171

１７　支 部 名：　あさひ希望の里

① 実 施 日：　平成 30 年 11 月 13 日（金）

② 実施場所：　天保山ハーバービレッジ

③ 対 象 者：　利用者 40 名　職員 17 名　ボランティア 3 名　実習生 3 名　計 63 名

④ 実施概要：　「利用者日帰り旅行」の実施

利用者から日帰り旅行に行きたいと要望がありました。利用者自治会の役員が中心となり実施に向けて行き先や企画内容、交通手段や日程の話し合いを持ち進めました。実施にまで至り他の利用者に喜んでもうことで自治会役員として達成感を味わってもらい、また要望すれば実現することを体験してもらいたいと思い実施しました。

⑤ 成　　果：　利用者 40 名、職員 17 名、ボランティア・実習生 6 名、総勢 63 名の大所帯での旅行は初めて参加される方も多く行きのバスの中から大合唱で大盛り上がりでした。遊覧船や観覧車、昼食、ショッピングもみんなでワイワイと楽しみました。利用者と共に職員やボランティア・実習生も一緒になって楽しい思い出が 1 つ増えました。施設に戻ってからも「今日は楽しかったありがとう」や「来年は～に行きたいね」などの声がありました。施設に帰って来た時にボランティア・実習生に「今日は来てくれてありがとう」と挨拶をする利用者の姿を見ました。また直近の自治会役員会では自治会役員として頑張った事を話し合うと、みんなに喜んでもらう為にバスの中の挨拶で盛り上げた事や、しおりやバスの中で歌う歌の歌集作りを頑張ったとも言っていました。達成感を味わうと共に自治会役員としてみんなの為に頑張ると言う意識が高まったと思います。今回の日帰り旅行を実現させたことで、要望しみんなと一緒に頑張れば実現できると感じられたと思います。今後も自治会からの要望でみんなが楽しめる活動に取り組んでいきたいと思います。

⑥ 収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	観光バス・レンタカー代	88,780
自己資金	30,481	高速・駐車場代	4,770
模擬店売上	54,310	遊覧・入場代等	43,700
		昼食代	44541
計	184,791	計	184,791

１８　支 部 名：　デイセンターフレンズ

① 実 施 日：　平成 30 年 11 月 22 日（木）　　記念パーティー
　　12 月 10 日（月）～26 日（水）　記念タオル贈呈訪問

② 実施場所：　デイセンターフレンズ・同法人内日中事業所５ヶ所

③ 対 象 者：　利用者・利用者ご家族・職員・来賓　計 50 名

④ 実施概要：　「創立 20 周年記念事業」の開催

２０周年記念パーティーでは、利用者やご家族だけでなく来賓も招き、スライド上映や発表会等で、一緒に２０周年をお祝いした。記念タオル贈呈訪問は、２０周年の報告と同法人内の皆さんと交流するため、各事業所を訪問した。

⑤ 成　　果：　創立２０周年の節目を、多くの方々と一緒に祝うことができました。ありがとうございました。まず記念パーティーの２０年を振り返るスライド上映では、来賓の方々も映っていたので、大変、喜んで頂きました。そのため後日、ＤＶＤにして皆さんにお配りさせてもらいました。そしてパーティーのメインのグループ発表では、２ヶ月以上前から、利用者一人ひとりの個性を活かすためにアイディア等を出し合い、練習を積み重ねてきましたが、その成果がどのグループも存分に発揮され、２０周年記念にふさわしい一人ひとりが輝ける舞台になりました。また各事業所を訪問し、記念タオル贈呈もしましたが唄を歌ってもらったり、手紙やボードを頂いたり…と、一緒にお祝いしてもらって温かい気持ちになり、訪問した利用者の皆さんのうれしそうな笑顔が印象的でした。今までの歴史の重みを感じながら、次の３０周年・４０周年…に向けて、皆さんと共にゆっくりと歩んでいきたいと思います。

収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	記念品（フェイスタオル）	50,328
自己資金	20,047	記念アルバム	39,355
		備品代	6,045
		飲食等代	22,300
		郵送代	2,019
計	120,047	計	120,047

１９　支 部 名：　総合支援センターさくら

① 実 施 日：　平成 30 年 11 月 22 日（木）

② 実施場所：　梅小路公園及び京都水族館、京都鉄道博物館

③ 対 象 者：　利用者様 6 名　ボランテイア 4 名　職員 5 名　　計 15 名
（体調不良等のため利用者様 4 名、ボランティア 1 名不参加）

④ 実施概要：　「障がいのある人たちの意思決定と社会参加促進のための余暇支援（日帰り外出活動）」の実施。

事前に京都水族館か鉄道博物館のどちらに行きたいかまた、何をしたいのかを個々に聞き取りをさせて頂いたうえで、公共交通機関と公共施設を利用することでの社会マナーの取得と社会参加の促進、お土産を買うことによる買い物体験と金銭管理の経験をして頂きます。また、ボランティアの障がい理解を深めて頂くようにしました。

⑤ 成　　果：　事前に利用者様に写真やパンフレットを提示しながら京都水族館または京都鉄道博物館のどちらに興味があるのか、どちらに行きたいのかを意思表示をして頂くように促しまた、外出先でなにを行いたいのかを一人づつ聞き取りを行ったうえで意思表示をして頂きました。当日は、事前の天気予報で小雨の予報でありまた、急に寒くなったことで体調を崩した方等のキャンセルが 5 名(利用者様 4 名、ボランティア 1 名)発生しました。

移動については、JR などの公共交通機関を利用して集団行動や公共マナーについて体験して頂き、また水族館と鉄道博物館のグループに分かれてボランティアを交えた小グループでそれぞれの館内における公共スペースにおいて昼食(弁当)をいただき、家族以外の人と集団で食べることの楽しさを体験して頂きました。また、水族館グループはイルカショーの見学を行い、ボランティアと魚やイルカを共通の話題として会話を楽しむことが出来ました。鉄道博物館グループでは事前に希望のあった SL 乗車体験を皆さんで交流が出来ました。帰りには買い物体験や金銭管理を目的として、利用者様個々に家族などに対して思い思いのお土産を買って頂きました。

帰りの JR では思わぬ事故のため電車が一時運行休止になり、そのまま車内に残りたい方、阪急電車への振り替え運転に乗り換えたい方に分かれましたが皆さんスムーズに行動されていました。思わぬ事故の出来事でしたが、利用者の皆様の対応力に驚かされました。また、ボランティアの障がいに対する理解も深まったと思います。

今後も、1 年に 1～2 回程度は、ボランティアを募って公共交通や公共施設を利用した外出を伴った余暇の支援を行い、ボランティアの障がい理解を促進しながら利用者様には公共ルールを学んで頂き、家族・職員以外の人達との交流を通じて社会参加の喜びを知って頂くと共に自分の気持ちを他者に伝えたり、自己選択が出来たりするようにしていきます。

⑥ 収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	37,620	交通費	8,800
自己資金	0	昼食代（弁当）	12,450
		入場料	16,370
計	37,620	計	37,620

２０　支 部 名：　くりのみ園

① 実 施 日：　第 1 回公開講座　平成 30 年 8 月 4 日（土）
第 2 回公開講座　10 月 14 日（日）
実践報告会　11 月 24 日（土）

② 実施場所：　第 1 回公開講座　豊中市すこやかプラザ
第 2 回公開講座　ホテルアイボリー
実践報告会　能勢町浄るりシアター

③ 対 象 者：　述べ合計　163 人参加（昨年 132 人）

第 1 回公開講座（48 人）四幸舎和会法人スタッフ　26 人　外部 22 人

第 2 回公開講座（58 人）四幸舎和会法人スタッフ　29 人　外部 11 人　家族 18 人

実践報告会（57 人）四幸舎和会法人スタッフ　30 人　外部 22 人家族・後見人 5 人

④　実施概要：「公開講座・実践報告会」の実施

法人スタッフはもちろんだが、地域や関係機関が障がいのある方のより良い支援、権利擁護、また地域貢献を目的として法人主催で実施。今回で 5 回目となった。

今回は「自閉症支援を見つめなおす」というテーマのもと公開講座を 2 回、最後に実践報告会という内容で実施。企画をより良いものとするため専門分野の講師を招き会場は参加者が参加しやすい会場確保をおこなった。

⑤ 成　　果：　講座から実践報告会という流れの中で、客観的にコメントやアドバイスをいただくことで、より学びになるように専門的な講師を招いた。また、参加者がアクセスしやすく、定員を確保できる会場の確保をおこなった。これらについては、大阪知的障害児者生活サポート協会の助成による法人の負担軽減となった。また、参加者の以下

のような感想から成果を感じ取ることができる

【第1回講座】

・　まだ学生で現場経験があるわけではありませんが、少しでも自閉症の方の世界をのぞくきっかけ、手がかりになるかなと思いました。
・　クオリティが高くびっくりした。中身の濃い3時間だった。
・　アセスメントの重要性を理解することができた。本人の困っていることの本質を知る、見ることを意識して役立てていきたい。

【第2回講座】

・　制度の内容や申請の方法など、表面的な内容でなく、「なぜ、後見人制度が必要なのか」という根本的な内容を、障がいをもつ方の権利擁護の視点から学ぶことができました
・　第三者の視点で本人支援を見てくださることで、支援者に対する関わりの視点の見直しにつながるきっかけになることを学びました。
・　本人主体の視点で関わっているつもりでも、家族や関係者との関係が強くなると、お恥ずかしい話ですが本人が置き去りになっていることもあると思います。そのような時に、後見人さんのように客観的な視点をもつ人の存在は大きいと感じました。

【実践報告会】

・　法人内で1年のテーマ「自閉症支援をみつめなおす」を掲げ、職員さん一人ひとりに周知し、そのテーマをもとに実践に取り組む仕組みが素晴らしいと感じました。
・　多様な視点をもつ職員同士の対話を通じて、根拠をもった関わり、アセスメントが重要で、説明できる支援とは、「根拠のある統一した関わり」であり、これが「安心できる暮らしの継続」につながるのだと学びました。充実した研修会に参加させていただき感謝しています。
・　ＴＴＡＰというツールを通じて利用者の特性を理解することで、関係するすべての方の共通理解が得られ、それにより、同じ方向性で支援に取り組むことができるということを学ぶことができました。
・　改めて四幸舎和会で福祉業務に従事されている方々の意識の高さを感じることができる、すばらしい実践報告会であったと思います。

今後の展望

自閉症に関わる支援者の中には、一生懸命やっているが実感がないという方がまだまだ多いと思います。それは当法人も一緒だと思います。公開講座や実践報告を通じて、当法人スタッフだけでなく関係機関や家族などと共にいい支援を提供でき、自閉症の方々が豊かな生活をできるよう今後も取り組んでいきたいと考えています。

⑥　収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	講師謝礼・交通費	135,000
自己資金	100,630	昼食・お茶代	1,728
		会場費	63,902
計	200,630	計	200,630

２１　支 部 名：　てんとう虫

①　実 施 日：　平成 30 年 12 月 1 日（土）

②　実施場所：　大東市民会館　大会議室

③　対 象 者：　利用者 20 名　ご家族 23 名　職員・理事 20 名　計 63 名

④　実施概要：　「利用者・家族・職員交流クリスマス会」の開催

利用者、ご家族・職員の三者の交流を通して、より良い利用者支援を探るものです。（行事概要）利用者音楽発表、ビンゴゲーム、サンタのプレゼント、ボランティア出演、食事を通して三者懇談。

⑤　成　　果：　① 全員にこの企画を楽しんでもらいました。②　三者交流を通して利用者の個性等をより深く観察することができました。 ③ 事業所の発展に団結ができました。今後も、数少ないこのような大きな企画を通して、事業運営の向上と利用者支援の充実を目指します。

⑥　収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	会場費	21,900
自己資金	34,503	食事代	113,664
参加費	34,500	賞品代	23,927
		必要備品等	9,512
計	169,003	計	169,003

２２　支 部 名：　あいらぶ工房

①　実 施 日：　平成 30 年 12 月 5 日（水）～6 日（木）

②　実施場所：　姫路、明石方面

③　対 象 者：　あいらぶ工房利用者、職員、ボランティア　計 65 名

④　実施概要：　「利用者一泊旅行」の実施

日頃集団行動をする機会が少ないので、重複障がいを持つ利用者同士お互いに助け合いまた、ボランティアとの交流や旅先での観光・体験等から対人関係や社会性を学びたい。

⑤　成　　果：　一泊旅行を通じて、重複障がいをもつ利用者同士、またボランティアとの交流を図ることができた。また、観光や体験等の社会学習の中から、集団行動や社会性を育むことができた。

今後も、旅行で育まれた「集団行動の力（協調性や思いやり）」や「自主性・積極性の力」をこの旅行だけで終わらせずに、日常生活でも発揮できる環境づくりや支援に取り組みたい。

⑥　収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	宿泊費	932,750
自己資金	1,440,260	追加飲料代	41,310
共同募金補助金	50,000	昼食代	225,550

		企画旅行代金	35,100
		貸切バス代	250,000
		高速代・駐車料金	35,000
		乗務員・添乗員経費	54,200
		国内旅行傷害保険	19,800
		値引き	―3,450
計	1,590,260	計	1,590,260

２３　支 部 名：　れすと

①　実 施 日：　平成 31 年 1 月 5 日（土）

②　実施場所：　生活介護事業所　れすと

③　対 象 者：　利用者 8 名　ご家族 8 名　職員 7 名　合計 23 名

④　実施概要：　「交流・親睦新年会」の開催

事業所開所 3 年目を迎えましたが、普段なかなか出会えない、保護者や利用者、そして職員の交流と親睦を深め、今後の利用者の皆さんの支援の充実をはかるために「交流・親睦新年会」を開催しました。

⑤　成　　果：

＊尊敬

やはり当日の一番の成果は、利用者（64 歳）の親御さん（95 歳）が「ほかの利用者さんのご家族が来ているのに、娘ひとりだと寂しいだろうし、私が参加したら喜ぶかなあ」と、ご高齢のお身体をおして新年会に見えられたことです。普段、親御さんはデイサービスを利用し自宅でひとりで住まわれ、利用者さんはグループホームで生活という中で、お二人が会うことは困難な状況でした。親御さんは、新年会に参加され利用者さんの元気な姿を見て大変喜んでおられました。その姿に、参加者のみなさんも感動し尊敬の念を抱きました。　後日、親御さんから「行って良かった。来年も参加できるように元気でいます」とのご連絡をいただきました。

＊感動

カラオケの最後に、利用者と保護者、職員が、保護者のリードで「世界にひとつだけの花」を大声で合唱したので感動がありました。

＊大満足

助成を頂いたので、「お鍋」だけでなく、「お寿司」や「オードブル」を購入できて、ボリュームいっぱいで参加者の皆さんは大満足されていました。また、福袋も開封して喜んで頂けるものを入れることが出来ました。

今後の展望としては、今年度の新年会が利用者さん、ご家族に大変好評で「来年も参加したい」と言われる保護者の方が今からおられますので財政的には規模が小さくなり、メニューはお鍋だけになるかもわかりませんが、助成金で購入させていただいたカラオケ機器がありますのできっと盛り上がる新宴会を開催する予定です。また、カラオケの日中活動としての確立が図れそうです。新年会以降、カラオケを利用して

水曜日、土曜日の午後 2 時から、定例化でき、一人二曲を歌うことになっており、楽しみとなっています。

⑥　収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	飲食代（食材料等）	51,154
自己資金	7,376	ゲーム・景品代	24,900
参加費	5,400	カラオケ代	32,184
	112,767	消耗品代	4,529
計	112,767	計	112,767

２４　支 部 名：　ういず滝井

①　実 施 日：　平成 30 年 10 月 19 日（金）～20 日（土）

②　実施場所：　神戸フルーツフラワーパーク

③　対 象 者：　利用者 19 名　職員 9 名　計 28 人（当日キャンセル 5 名）

④　実施概要：　「一泊利用者旅行」の実施

⑤　成　　果：　昨年度の帰りは交通機関を使った経験から今年度は往復交通機関で行く目的をたてた。毎月のお出かけや経験から、自分たちで行った経験をすることが出来たことは大きな自信となる。今年度からは自分達で行先から移動手段を考えて取り組んできた。イメージ作りから始まり毎週、メンバー旅行会議や全体説明会を進めてきた中で自分達の役割を獲得できた企画と感じた。今後、この取組みを続ける中でどの様な展望が生まれてくるか支援したい。

⑥　収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	宿泊費	400,554
自己資金	544,289	交通費	53,710
		昼食費（2 日分）	101,286
		活動費	8,700
		乗り物代	11,300
		旅行会社手数料	5,000
		下見代	23,890
		景品代・土産代	19,549
		その他、諸経費	20,300
計	644,289	計	644,289

２５　支 部 名：　ひばり作業所

①　実 施 日：　平成 30 年 9 月 6 日（木）～7 日（金）

②　実施場所：　福井、滋賀、伊勢志摩、鈴鹿、淡路島

③　対 象 者：　利用者 81 名　職員 47 名　　計 128 名

④　実施概要：　「施設一泊旅行」の実施

以下の 2 点を目的とした。

・「普段と違う環境」でみんなと一緒に楽しく過ごし、利用者・職員ともに交流を深めること。

・みんなと一緒に普段できない経験・体験をし, 一人ひとりの生活の幅を広げること。

⑤　成　　果：　利用者を普段の所属班をベースに 5 つのグループに編成し、②の行き先に旅行しました。行き先は、恐竜博物館、志摩スペイン村、イングランドの丘、ブルーメの丘、伊勢シーパラダイス、鈴鹿サーキットに行きました。志摩スペイン村や鈴鹿サーキットでは、利用者が乗り物に乗ったりゲームをして遊びました。イングランドの丘やブルーメの丘では、みんながアイスクリーム作りやチョコケーキ作り、または写真立てを作りました。夜には各グループ、旅館で宴会を行うなど、利用者・職員ともに交流しました。グループごとに、普段あまり関わりを持つことが少ない利用者同士、楽しい経験を通じて関わりを持つことができた。遊園地に行った人は、「○○さんと一緒に乗る」と誘ってみたり、食べ物作り体験では、作ったアイスクリームやチョコケーキを隣の人にあげたりする人がいた。

乗り物に乗る、動物などを鑑賞する、食べ物を作るなど利用者にとって普段経験できない事を体験することで、新たな喜びに繋がっていった。目的に記載した通り、普段と違う場所で、違う経験をすることは利用者にとって新たな喜びや楽しみに繋がっている。この実施目的を大事にしながら、一泊旅行が利用者の成長や発達に繋がるきっかけにしていきたい。次年度以降も一泊旅行を継続していきたいと考えています。

⑥　収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	50,000	交通費	1,129,890
自己資金	2,962,360	宿泊費	1,214,400
		食費（昼食代）	271,400
		活動費（入園料等）	223450
		諸経費	173,220
計	3,012,360	計	3,012,360

２６　支 部 名：　桜の園

①　実 施 日：　平成 31 年 1 月 26 日（土）

②　実施場所：　桜の園

③　対 象 者：　利用者　47 名、地域の方々　約 100 名　約 147 名

④　実施概要：　「冬の地域交流」の開催

実施目的

「地域と共に」をモットーに通常の利用者さんの活動として、廃品回収や機関紙のポスティングなど地域に密着した活動に取り組んできました。

地域の方々にも桜の園でのまつりを楽しんでもらいたいとの思いで地域を巻き込んでたくさんの人々に桜の園に来てもらい障がいを持った人たちとの交流や地域のつながりを大切にする活動です。

概　要

桜の園の食堂を開放してステージを作り地域の方々に出演してもらう。

・地域の中学校と高校の吹奏楽部による合同演奏会
・守口市の小学生によるバトングループさんによる合同演奏会
・地域の方々による紙芝居
・地域の方のサークルによる三味線と唄
・桜の園の利用者さんたちのソーラン節
・利用者の保護者さんたちによるママさんコーラス
・屋外での、ふるまいおでん

それと多目的室を開放して喫茶店として地域の中学校の茶道部さんと自主製品のパンと紙すき製品の販売を行いました。

⑤ 成　　果：　ふるまいおでんを 200 食用意させてもらい来てもらった方々にふるまい昼過ぎにはなくなりました。ステージでも 80 席がほぼ満席で屋外では野菜の販売も行い、たくさんの方々に来ていただいた。

このような行事を行うことで障がいを持った人たちのことを知ってもらい、地域で理解と共に住みやすいようにこれからも地域の方々との交流を続けていくことが必要で大切だと考えます。今後もこのような祭を続けて沢山の方に来てもらい理解を広げていけたらと思います。

⑥ 収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	看板・食材等材料費	21,645
自己資金	37,908	茶道部抹茶・和菓子代	9,166
		野菜販売仕入れ代	30,000
		喫茶用物品代	15,248
		喫茶用飲料代	26,270
		昼食用おにぎり代	28,800
		野菜販売用レジ袋	625
		マイクケーブル	4,104
		カイロ・DVD	2,050
計	137,908	計	137,908

２７　支 部 名：　シュレオーテ

① 実 施 日：　平成 30 年 9 月 29 日（土）、10 月 20 日（土）
11 月 10 日（土）、12 月 15 日（土）、平成 31 年 2 月 9 日（土）

② 実施場所：　岸和田市福祉総合センター

③ 対 象 者：　青年期から成人期の障がい者

④ 実施概要：　「こころとからだの学習会（全 5 回）」の開催
公開セミナーとして青年期の障がい児者を対象に性教育を実施。

⑤ 成　　果：　障がい児者への性教育については言葉の説明だけでは伝わりにくいことが多い。学校での取り組みもばらつきがある。性教育の大切なポイントの一つに自分の体のことを正しく知ること、異性の体のことを知ること、そして男女が思いやりを持って接すること、セルフプレジャーは悪いことではなくルールを守って自分で楽しむことなどがあげられる。こういったことを系統的に学ぶ機会を提供できたことは大きな成果であったと考える。今後の展望としては、障がい者が性について学ぶ機会として貴重なものであるので地域の関係機関にこのような取り組みの情報を発信していけば受講者と支援者を増やしていくことができると考える。

⑥ 収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	50,000	講師謝礼	55,685
自己資金	5,685		
	55,685		55,685

２８　支 部 名：　摂津市立ひびきはばたき園

① 実 施 日：　平成 31 年 2 月 16 日（土）作品展示 2 月 16（土）～21 日（日）

② 実施場所：　摂津市立コミュニティプラザ

③ 対 象 者：　利用者、家族・摂津市障がい者総合支援センター（ウイング）利用者、家族・ 摂津市立みきの路利用者、家族・摂津市内の障がい者、家族・地域一般市民

計 250 名

④ 実施概要：　「第 18 回つくっ展と輝けコンサート」の開催

・作品展について（出品事業所）

摂津市立ひびきはばたき園（生活介護・就労移行支援・自立訓練・就労継続支援 B 型)・摂津市障がい者総合支援センター（ウイング)・摂津市立みきの路

・コンサート（鑑賞会 ）について

「パラプンテ　バンド演奏会」　　12：30～15：00

⑤ 成　　果：　作品展では一年間の活動を通じて作り上げた利用者の作品を出品し、その作品を通して日頃の訓練や活動について、来場者の方に理解を深めていただきまし

た。コンサート（演奏会 ） を同時開催し、地域の人々と共に楽しめる交流や相互理解の場として行事を展開することができました。今後の展望としては、「つくっ展と輝けコンサート」は、今年度 18 回目を迎えて、地域に定着したイベントとなっています。今後も継続してこの行事を実施し、地域福祉の啓発に努め、障がいのある人が地域で安心して暮らせる社会の実現を目指してまいります。

⑥ 収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	50000	消耗品（プリンターインク代等）	14,066
自己資金	105,025	会場使用料	42,222
		出演者謝礼・花代等	66,153
		作品材料費・作品展白布	30,784
		ボランティア保険	1,800
計	155,025	計	155,025

２９　支 部 名：　ネクスト（スペース）

① 実 施 日：　平成 31 年 2 月 12 日（水）～17 日（日）

② 実施場所：　大阪府立江之子島文化芸術創造センター（enoco ルーム 2）

③ 対 象 者：　来場者約 250 名

④ 実施概要：　「自然・生き物・女性たちに焦点をあてるスペース展 in enoco」の開催

⑤ 成　　果：　本展示会は、NPO 法人ネクストが運営する生活介護事業所「スペース」が開所して 5 周年を迎え、開所当時から取り組んできた創作活動の発表の場として開催しました。開催前には、ポストカード 250 枚、A4 フライヤー300 部、また、作家名・作品紹介の入ったパンフレットを制作し、それぞれ、支援学校、福祉施設、大学などに周知のご協力をお願いする文章とともに配布しました。

以前より作家作品の展示場所を提供いただいているコメダ珈琲箕面小野原店、豊中店においては、ポスターを張り、フライヤーをお客様に配布いただき、告知にご協力いただきました。開催するにあたって、スペースで絵画制作する作家 10 名、25 点の作品を「生き物へのいつくしみ、自然へのまなざし、女性へのいつくしみ」をテーマに展示し、会期中は約 250 名の来場がありました。通常の社会では生きにくさや生活

のしづらさを感じる彼らが、展示会を通じて活き活きと来場者と話し、また、来場者も作家とその作品のファンになっていただく事ができました。

今後の展望としては、今回の展示を終了し、幅広い方々から絵画の高い評価や、作家本人への温かい言葉もいただき、また、作品の 2 次利用のご提案もいただき、新たな可能性を感じることができました。そして、スペースの作家の皆にとって、普段の生活では支援される側としての生活の中、自分たちの活動で人に感動を与える喜びを得ることができました。今後も、このような機会を設け、作家の心の豊かさに繋げていきたいと思います。

⑥ 収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	50,000	印刷代（はがき、フライヤー）	36,828
自己資金	96,082	パンフレット印刷	53,460
		ポスター印刷	4,590
		会場使用料	50,124
		展示消耗品	1,080
計	146,082	計	146,082

３０　支 部 名：　地域生活総合支援センターきらら

① 実 施 日：　平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月

動画 DVD の制作に当たっては、東京を拠点とする映像制作会社「(株) タチワニ」との契約により、担当ディレクター（監督）山口氏と広域に点在する当法人施設（箕面市、茨木市、堺市、河内長野市）で勤務する委員会メンバーによって、週 1 回程度のペース開催した「ネット会議」が活動拠点となりました。これにより経費（移動経費等）が節約できたとともに、フレキシブルに議論や意見交換を行うことができました。撮影本番は 12 月 10 日から 12 日までの丸 3 日間を要しました。その後、約 2 ヶ月を掛け、意見交換を重ねながらナレーションを含む、編集作業等を経て、完成するに至りました。

② 実施場所：　撮影準備にかかるシナリオ策定等については、法人施設（箕面市、茨木市、堺市、河内長野市）を活動の拠点とし、既述したように、各職場のパソコンにて「ネット会議」を定期的に実施して進めました。

一方、ネット会議では対応しきれない「ロケハン（現場確認等）」や「演技指導・演技

プラン」、もちろん「撮影本番」に際しては、堺市、河内長野市に所在する当法人施設を活用しました。また、トピックスとして、堺市の「(株) あじみ屋　堺本店」の協力を得て、同店舗内で撮影を行うことができたことで、臨場感ある映像を撮ることができました。

③ 対 象 者：　・就労を目指す障がいのある方、ご家族の方
・就労支援機関（SST トレーニングのツールとして）
・障がい者雇用に取り組む企業・事務所（啓発用）

④ 実施概要：　「発達障がいと職場環境（本編）」の DVD 制作

平成 30 年度「障害者雇用促進法」の改正によって精神障がい者の雇用義務化が実現し、法定雇用率が引上げられました。こうした制度的なバックボーンによって障がい者の雇用・就労ニーズは著しく高まっています。しかし、一方で「職業準備性」が十分に整っていない状態で就職したことで就労後に課題が噴出し、早期の離職に繋がるケースも少なくありません。その原因のひとつに、障がい当事者が「職場」という特殊な環境を知らないことでミスマッチが起こっていることが考えられます。また、雇用する側も制度や法的な整備やスピードに、雇用現場としての「理解」がついていかず、結果的に適切な配慮（合理的配慮）が提供できないことが考えられます。私たちは支援者として、このふたつのベクトルが適切に交わり、障がいのある人が「働き続ける為の一助」となる為のツール開発を目的として、本動画ＤＶＤ「発達障がいと職場環境」を制作しました。

また、本動画ＤＶＤは、障がい当事者と雇用主の理解促進のための「啓発的機能」に留まらず、就労訓練の場において、本ＤＶＤを活用して職場内における「ＳＳＴ（ソーシャル・スキル・トレーニング)」を行うことができることも目的としています。即ち、各支援機関における「新たな支援ツール」として活用して頂くことも想定しています。円滑に「ＳＳＴ」が実施できるよう、また、留意して頂きたいことや、ちょっとしたコツ、場面やナレーションの真意などについて解説した「活用編」を別途作成していますので、本編と併せてご活用いただければ幸いです。

⑤ 成　　果：今般の活動を通じて得た“目に見える成果”としては以下のとおりです。

・成果物として 動画 DVD「発達障がいと職場環境（本編)」の完成
・制作過程における有形無形のスキルアップと人脈形成（人材育成）
・ＳＮＳの活用～ネット会議（Zoom)、グループ LINE、ユーチューブの活用
・本 DVD の有効活用方法（支援ツール）の検討→「活用編」の制作

今後の展望としては、就労移行支援の最大の特性として、利用者を就職させることが必須です。それは同時に事業の利用者を失い、安定した給付費がなくなり、次の利用者を獲得できなければ、運営継続ができないことを意味しています。

本助成事業によって制作した動画ＤＶＤ「発達障がいと職場環境」が、各現場において新たな支援ツール(技術)となって、多様化するニーズに応えることで、事業所の安定的運営と良質なサービスの提供につなげたいと考えています。

⑥　収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	制作業務　本体契約料金	500,000
自己資金	584,506	ナレーター契約料	68,000
		ナレーション契約更新料（初年度分）	10,000
		スタジオ使用料	102,000
		DVD 制作費（DVD100 枚）	4,506
計	684,506	計	684,506

３１　支 部 名：　風の森（柏原作業所連絡会）

① 実 施 日：　平成 31 年 2 月 22 日（金）

② 実施場所：　柏原市リビエールホール　レセプション

③ 対 象 者：　柏原市の福祉施設
風の森、高井田苑、夢工房くるみ、わくわく、たんぽぽ、いろは、熊の家、7 施設の利用者・職員　約 120 名

④ 実施概要：　「KSR 大文化祭」の開催
柏原市の福祉施設（７施設）が集まって文化・芸術を楽しもうという企画も今年度で 10 回目を迎えることができました。（KSR 文化祭）今年は大阪教育大学生による音楽鑑賞会を実施しました。　1 部：声楽・バンド演奏　　2 部：みんなでダンス

⑤ 成　　果：　利用者、職員合わせて 120 名近くの参加者となり大盛況でした。
また今回、頂いた助成金を使って、イベント用の音響機材を購入しました。
この機材を購入したことにより、とても迫力あるまとまった演奏を聞くことができました。演奏の後も、この機材を使用し、みんなで歌ったり、踊ったりと多くの利用者さんはステージ前に出ていき、他施設の方との交流を深めることが出来ました。

今回の企画は大盛況で、引き続きダンスや歌などの企画をしてほしいとそれぞれの施設利用者から要望としてあがっています。今回の助成金で購入させてもらった機材を活かした企画、実施を継続していくことが決まりました。

⑥　収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	出演料、交通費、昼食代	40,000
自己資金	44,321	会場費、付属設備	16,000
		宣伝費（ポスター、パンフ等）	10000
		機材購入費	77,800
		雑費	521
計	144,321	計	144,321

３２　支 部 名：　そうそうの杜

①　実 施 日：　平成 30 年 10 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

②　実施場所：　そうそうの杜

③　対 象 者：　利用者 17 名

④　実施概要：　「就労支援のための利用者聞き取り調査」の実施

本調査の目的は、知的・発達障がいのある人の就労を継続するための要因および離職をもたらす要因について、当事者の観点を踏まえて整理し、就労し続けられる職場環境の整備に資することを目的とする。そのために、当法人に就労している知的障がい・発達障がいのある人たち（法人内での障がい者雇用・就労継続支援Ａ型事業）の就労継続のために要素は何かという観点で外部の研究者と共同して、就職者へのアンケート調査を実施した。

⑤　成　　果：就労継続を促進する要因と、離職につながる要因についてアンケート調査の回答から要因をポイントとして把握することができた。結果を総合すると「作業負荷を下げ、職務のサポート体制を整備し、職務や人間関係について相談しやすい体制を作っておくことができれば就労が継続されやすい」一方で、「低い賃金で負荷の高い勤務形態の職場で、否定的な言葉を投げかけられるようなことをされる職場での就労は継続されにくい」ということが考えられる。後者の継続されにくい要因については当然であると考えられるが、前者の継続を促進する要因については、全ての事業所がこれを意識して雇用体系を整備しているとは考えられないため、示唆的な結果であると考えられる。

近年、合理的配慮という言葉と概念が浸透し、就労場面において合理的配慮をする／受けることが当然だというようになってきているものの、特に事業者側においてその合理的配慮をどのようにすれば良いかということが課題になっている。

いかに「合理的」な「配慮」をするかということをどのように考えればいいのかということが明確になっていないことが現場の混乱を招いている。今回の結果はこれに対して「作業負荷を下げ、職務のサポート体制を整備し、職務や人間関係について相談しやすい体制を作っておくこと」が重要であることを示しており、このように（3 つの）方針を定めることができれば、知的・発達障害のある人が働きやすい職場を作りやすくなるのではないかと考えられる。

⑥　収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	文書作成等	20,000
自己資金	4,000	調査経費	18,000
		データー分析	36,000
		報告書作成	24,000
		交通費	1,080
		その他経費	4,920
計	104,000	計	104,000

３３　支 部 名：　チャレンジハウスどんどん

① 実 施 日：　平成 30 年 11 月 2 日（金）

② 実施場所：　京都タワーと京都水族館

③ 対 象 者：　利用者 12 名、職員 9 名　計 21 名

④ 実施概要：　「利用者親睦日帰り野外活動」の実施

観光バスにて京都タワー見学と京都水族館観覧。

⑤ 成　　果：　普段は活動や作業を共にしているメンバーたちと共に、観光バスをレンタルして一緒に乗って日帰りバス旅行に出かける事ができ、交流を深める事が出来ました。

京都タワーでは京都を 360 度見渡せる眺望に歓喜し、京都水族館では迫力のイルカショーや円柱水槽の中を泳ぐゴマフアアザラシを見て癒やされました。

今後の展望としては、野外活動は日常から離れて皆と一緒に刺激や興奮が味わえ、毎年の利用者様の楽しみなので今後も継続して色んなところへ出かけたいと思っています。

⑥　収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	50,000	観光バスレンタル代	73,440
自己資金	61,670	高速代　他	9,250
		京都水族館入館料	21,630
		京都タワー入場料	7,350
計	111,670	計	111,670

３４　支 部 名：　えるで

①　実 施 日：　平成 31 年 3 月 21 日（木）

②　実施場所：　はーとビュー（松原市人権交流センター）

③　対 象 者：　利用者、職員、関係団体、ボランティア、地域住民等　約 1,000 名

④　実施概要：　「バオバブとみんなの WA2019」の開催

⑤　成　　果：　当日朝に降った雨の影響により、会場を雨仕様の配置にしたり等の変更はありましたが、当日 11：00 の開門の時には、雨も上がり、暖かい天候のもと、“バオバブとみんなの WA”を開催することができました。

イベント会場では、餅つきやゲーム、自主製品販売、関係団体による出店等が並び、ステージでは手話歌披露、ダンス、南京玉すだれ、和太鼓、バンド演奏等が賑やかに行われました。たくさんのボランティアさん達に参加いただき、多くの地域住民のみなさんに足を運んでもらって、楽しい時間を過ごすことができました。

また、利用者さん自身も、販売の店頭に立って大きな声でお客さんを呼び込みしたりステージで施設紹介やソーラン節や歌の発表を行ったりし、いきいきとした姿を地域のみなさんに見てもらうことができました。

このイベントを通じて、地域とつながって『障がいのある人もない人も共に地域でい

きいきと』を実現する大きな機会になったと思います。

これからも地域とのつながりを大切にし、バオバオの理念である『障がいのある人もない人も共に地域でいきいきと』を実現していくため活動として、より大きく育てていきたいと考えます。

⑥　収支報告：

＜収入＞　　＜支出＞　　（円）

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	広報（ポスター、往復はがき等）	54,678
自己資金	82,189	要員昼食・飲み物	81,463
協賛金	85,000	行事賠償保険	5,100
カンパ	16,000	手話通訳謝礼	10,000
		舞台設営代	80,000
		レンタカー代	51,948
計	283,189	計	283,189

Ⅱ　資　料

○平成 30 年度支部活動等助成事業実施要項

○平成 30 年度支部活動等助成事業実施支部一覧

○大阪生活サポート協会の理念と事業

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
平成 30 年度支部活動等助成事業実施要項

（助成事業の目的）

1．この事業は、一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会(以下、大阪生活サポート協会という。)定款に則り、知的障がい児者・自閉症児者(以下障がい児者という。)とその家族の生活の安定と福祉の増進に寄与することを目的とした「支部活動」に対し助成を行う。

（定義）

2．「支部活動」とは、大阪生活サポート協会会員（「生活サポート総合補償制度」を利用する者）が所属する施設・事業所等（以下、支部という。）の実施する事業をいう。

（助成の対象）

3．助成事業の申請は、大阪生活サポート協会会員の所属するすべての支部を対象とする。

（助成対象事業）

4．各支部が行う、次の事業に対し助成を行う。

(1)障がい児者の日常生活支援に関する事業
(2)障がい児者の就労支援に関する事業
(3)障がい児者の権利擁護に関する事業
(4)障がい児者の文化･芸術･スポーツ、地域交流、地域貢献等の事業
(5)障がい児者の支援に従事する者の人材育成に寄与する事業
(6)その他目的を達成するために必要な事業

（選考基準）

5．選考に際しては、次の各項を勘案します。

(1) 新規申請支部（施設･事業所等）を優先する。
(2) 緊急性が高いと判断される事業
(3) 先駆的、独創的な事業で、その効果が期待される事業
(4) 継続的な活動により、その効果が期待される事業（研修会・地域交流・人材育成等）
(5) 日帰り旅行・宿泊訓練（旅行）については、新規申請支部を優先する。
(6) 施設･事業所等の補修、改修、備品購入等に関する費用は、原則として助成対象としない。

（助成対象期間）

6．平成３０年４月１日から平成３１年３月３１日までの間に行われる事業を対象とする。

（助成金の範囲）

7．支部活動等に対する助成金は、毎年度ごとの予算額の範囲内とする。

(1)支部活動等への助成は年度内１回限りとし、助成額については、
会員５人以下：５万円を上限、会員６人以上：１０万円を上限とする。
（予算：２８０万円）

(2)下記に示す地区ブロック単位で複数の支部が協働して事業を実施する場合は、事業内容・参加人数等を考慮し、３０万円を上限として助成する。複数の地区ブロックが合同で実施する場合も可とする。（予算：１２０万円）

(3) 地区ブロック単位あるいは複数の地区ブロックが事業を実施する場合は、大阪生活サポート協会との共催事業とする。

※ 地区ブロックとは「北摂、北河内、中河内、南河内、泉北、泉南、大阪市」である。

（手続き）

８．助成金申請に関する手続きは下記のとおりとする。

(1) 申請する支部は、様式１-１号・１-２号にて大阪生活サポート協会理事長あてに申請書並びに予算書を提出しなければならない。

(2) 事業実施した支部は事業終了後１ヶ月以内に様式２-１号・２-２号により、事業報告書並びに決算報告書を提出しなければならない。

ただし、平成３１年３月に事業実施した場合は、４月１０日までに報告書を提出しなければならない。

(3) 事業実施前、あるいは途中において内容の変更がある場合は、様式１-１号・１-２号により変更箇所を明らかにし、再度提出しなければならない。

(4) 手続きに関する実施要項・様式は、当大阪生活サポート協会ホームページ（「大阪生活サポート協会」で検索）に掲載する。（ダウンロード可能。）

（審　査/結果通知）

９．提出された申請書に基づき理事会で審査した後に、助成の可否について申請した支部に通知する。

(1)助成決定支部には、助成額及び事業報告書･決算報告書(様式２-１号･２-２号)等について、メールあるいは文書にて通知する。

（助成金の交付）

10. 事業終了後１ヶ月以内に提出された事業報告書･決算報告書を理事会で審査した結果、適切な執行と認めたときは、助成額の範囲内であれば実績額を平成３１年４月末までに指定の口座に振り込むこととする。

ただし、助成額を越える場合は、各支部等の自己資金で賄うものとする。

（申し込み締切日時）

11. この事業の平成３０年度の申し込み期日は、平成３０年８月１０日(当日消印有効)までとする。

（その他留意事項）

12. 事業実施するに際して、以下の点に留意すること。

(1) 事業実施に際しては、大阪生活サポート協会の助成事業であることを利用者･家族,関係者等に伝えるとともに、報告書に大阪生活サポート協会からの助成事業であることを明記した配布物や行事案内を添付すること。

(2)大阪生活サポート協会からの助成事業であることを表示しない場合は、助成しないものとする。

附則　　平成３０年４月１日施行

～問い合わせ先・申請書類の提出先～

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
〒542-0012 大阪市中央区谷町７丁目４番15号　大阪府社会福祉会館内
TEL：０６‐６７６４‐６８８９　FAX：０６－６７７０－５９８８
E-mail：kyokai@osakasupport.or.jp

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
平成３０年度支部活動等助成事業実施支部一覧

	法　人　名	支　部　名	平成３０年度		加入者数	平成３０年度支部活動等助成事業報告（概要）
			希望金額	助成金額		
1	（社福） 心愛	心愛塾作業所	100,000	100,000	25	平成 30 年 9 月 16 日、**「設立 15 周年記念の集い」の開催** 今年度 15 周年を迎えるにあたり、利用者を中心に日頃お互いに交流することのない方々（保護者・職員、世話人・役員等）と会食を含め集い、更にこれからの事を話し合う機会を作ることを目的に開催。少し改まった服装に緊張感と喜びを交えたメンバーの姿が見られたが、枚方市長からのお祝いのメッセージを頂き、心に残る記念の集いとなった。
2	（社福） 路交館	ほっとコミュニティ うぃる	100,000	100,000	8	平成 30 年 9 月 14～15 日、**「一泊旅行」の実施** 日頃一緒に仕事をしている仲間との交流や、したいことを仲間と一緒に実現することを目的に実施。今回の旅行では仕事以外で、楽しいことや「自分がしたいこと」が出来て、普段あまり見れない笑顔がたくさん見れたり、また来年も行きたいという声がたくさん聞かれた。　今後の展望としては、なかなか仕事の中では良いところが発見しづらくても仕事以外での場面で良いところが発見される機会にもなると考える。
3	（社福） 堺あすなろ会	堺あすなろ園	100,000	100,000	14	平成 30 年 10 月 12 日、**「あすなろフェスタ」の開催** 障がい程度や班という縛りを越えて施設全体で秋の一日を楽しむことを目的に開催。施設では何も口にしない利用者さんが、「今日は、食べてくれたよ！」という嬉しい報告もあった。準備段階から職員間の交流も活発になり、みんなで作り上げた「あすなろフェスタ」は大成功となった。当施設の利用者さんも高齢化が進み、刺激の少ない毎日になりがちだが、職員のアイデアと行動力で、利用者さんに楽しみを提供する事ができればと思います。
4	（社福） 風の会	風の会	100,000	50,000	4	平成 30 年 10 月 8、11、15、18 日、**「障がい者の肥満予防対策運動プログラム」の実践事業** 立位で行う運動プログラムと、座位で行う運動プログラムを約 5 分の動画を見て実践。立位の運動は前屈、後屈、両手の挙上、各種片足でのバランス、しゃがみこみを取り入れスムーズに行え肩甲骨、体幹、股関節、足関節を多く動かす内容で実施。座位の運動は、椅子に座って安全に取り組め、ある程度の運動量を確保でき動的ストレッチングとして行えた。週 2～3 回を継続することで運動習慣を身につけてもらい肥満対策の健康づくりをしていく。
5	（社福） 月の輪学院	月の輪学院	100,000	50,000	5	平成 30 年 10 月 24 日、**「世代間交流の場」の設置** 障がい児から、高齢者までの法人内施設利用者の世代間交流を図り、ともに支え合い、生きがいある生活を創生することを目的に設置。バーベキュー祭りなどを通じて、設置したガーデンテーブルセットが非常に役に立った。今後は、幼稚園児のお芋まつりや、年末には法人全体行事でお餅つき大会があり法人内のグループホームや、認知症の高齢者及び地域の人たちとの交流に、芝生広場を活用の予定です。今後も、認知症高齢者や幼稚園児との世代間交流の場として活用したいと考えている。
6	（社福） 清光会	和泉の里	100,000	100,000	84	平成 30 年 9 月 17 日、「**南泉州和太鼓の集い」への参加** 台風 21 号の影響で、南泉州和太鼓の集いに関わる殆どの方が被災者となり「開催することができない」と悩んでいたが、出演団体から「こんな時だからこそ開催しましょう」とお声掛けを頂き、開催を決定した。大ホールのキャパからすると満員とはいえないが、心のこもったイベントになり、来場者も出演者も会場が一体となり、感動し涙を流した。また障がいがあるない関係なく出演者同士の交流、販売者同士の交流があり、今後の活動に活きる繋がりができ、更に障がいへの理解を深める啓発にも繋がった。

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
平成３０年度支部活動等助成事業実施支部一覧

	法　人　名	支　部　名	平成 30 年度		加入者数	平成３０年度支部活動等助成事業報告（概要）
			希望金額	助成金額		
7	（NPO） ダ・カー歩	ダ・カー歩	100,000	100,000	8	平成 30 年 10 月 18 日～19 日、**「研修旅行」の実施** 蒜山高原、玉造温泉方面に旅行。①いつも従事している仕事以外の事を学ぶ。②一日を通して全員で過ごす事で利用者同士の協調性と向上を図る。③普段、見る事の出来ない利用者のライフスタイルを観察する。④毎日、仕事を頑張っているので、余暇の充実を図り楽しむことを目的に実施。助成により利用者負担を軽減することが出来、集団行動する時、他の方に迷惑のかからないような行動をとる事など、色々と学べた旅行になった。
8	（社福） 水仙福祉会	淡路こども園	100,000	50,000	5	平成 30 年 10 月 13 日、**「成年後見人についての勉強会と交流会」の開催** 淡路こども園の在園児と卒園児の保護者が交流する機会を持ち、お互いに相談し合う等、顔の見える関係を築くことを目的に実施。家族支援とライフサイクルの視点に立った支援を大切にしているが、親同士のつながり、支え合いを援助していくことが、将来に向けて大きな力になると実感している。今後とも、このような取り組みを継続して行っていきたい。
9	（社福） 障友会	堺みなみ	100,000	50,000	44	平成 30 年 10 月 4 日、**「秋の日帰りリクレーション」の実施** 京都方面（京都水族館、京都鉄道博物館）への日帰りリクレーションを実施。普段体験することの少ない外食体験を通じて食事の楽しみを広げることができた。また、水族館、鉄道博物館のどちらに行くかを利用者で選択していただき、職員の予想と異なる選択をされる方もおられ、新たな発見があった。他の観光客に配慮して観覧・買い物をすることによって、社会性を養う良い機会ともなった。
10	（社福） ゆうとおん	ゆうとおん	50,000	50,000	30	平成 30 年 11 月 10 日、**「ゆうとおん祭」の開催** 事業所として、地域に住む子どもや住民の方との交流を持ちその機会を得て存在を知っていただく事を目的に開催した。事業所とつながりのある団体やボランティア等と実施。作品展示・販売、模擬店、音楽ライブ、演劇発表等を行った。同じ地域の色々な年齢層、障がいのある人、ない人が近くでたわいない話をする機会作りを開催できた事が成果と考える。
11	（社福） 全電通近畿社会福祉事業団	愛の家「きぼう」	50,000	50,000	42	平成 30 年 11 月 3 日、**「児童交流会」の実施** 関西サイクルスポーツセンターにて、安全に自転車を練習する機会（場）を提供するとともに、様々な自転車やアトラクションに乗り、体を動かして全児童が楽しみながら交流が図れる機会を設定した。また、昼食時バーベキューを実施した。児童部の絆が深まり、良い思い出になった。今後も、様々な活動を行い、経験や体験を積み重ね、助け合い・支え合い・思い合える児童部を構築していきたい。
12	（社福） 池田芽ばえ福祉会	東山作業所	100,000	100,000	26	平成 30 年 10 月 27 日、**「東山作業所まつり」の開催** 施設開放、地域交流を目的に開催。地域の太鼓集団をオープニングに迎え、当事者ダンスや車椅子のお笑い芸人などの出演ステージ、飲食の模擬店やゲームコーナー、復興応援物産販売、さをり織りなどの自主制作品コーナー、フリーマーケットなどを行った。地域の方、ボランティア、学生など多くの方々と交流を深めることができたとともに事業所の活動を知っていただく、良い機会となり当初の目的を達成することができた。
13	（社福） 北摂杉の子会	ジョブサイトひむろ	100,000	100,000	46	平成 30 年 10 月 17 日、**「第７回 杉の子農園収穫祭」の開催** 法人が所有する農園とその周辺を使い、収穫祭を開催。法人施設、事業所利用者、家族、職員、農園周辺の方々が参加。この夏の酷暑と台風の影響で、杉の子農園始まって以来の不作となり、開催が危ぶまれたが、規模の縮小や、開催方法を工夫して、どうにか実施にこぎつけることができた。利用者、保護者、地域の方々、職員が一同に会して実施する数少ないイベントのため、法人理念「地域に生きる」の具現化のため、今後も継続して行いたい。

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
平成３０年度支部活動等助成事業実施支部一覧

	法　人　名	支　部　名	平成２９年度		加入者数	平成２９年度支部活動等助成事業報告（概要）
			希望金額	助成金額		
14	（社福） 大阪手をつなぐ育成会	支援センター ねぎぼうず	100,000	100,000	7	平成 30 年 11 月 22 日、**「日帰り旅行訓練」の実施** 神戸方面に日帰り訓練（旅行）を実施。公共の施設見学、利用することにより、マナーやルールを学び、見聞を広めることができた。参加する利用者からは自己負担分を徴収するが、利用者の収入が障害基礎年金や作業所工賃であり、今回の助成金により、利用者負担を軽減できた。
15	（社福） いずみ野福祉会	梅の里ホーム	100,000	100,000	46	平成 30 年 9 月 18 日～19 日、**「利用者一泊旅行」の実施** 重い身体障害と知的障害のある利用者が参加。ほとんどの利用者が車椅子使用の方であったが、今年度は思い切って遠方（石川県）を選んだが、行き先が遠くてもゆったりと、体への負担も少なく楽しい旅行を提供することができた。今回の旅行を通じて、外出への自信や期待を職員、利用者ともに高めることができた。これからの社会との交流に対する支援に幅広く活かしていきたい。
16	（NPO） 活動センターいっぽ	活動センターいっぽ	100,000	100,000	11	平成 30 年 11 月 5～6 日、**「農業公園体験型一泊旅行」の実施** 旅行など外出の機会のほとんどない利用者に「伊賀の里モクモク手づくりファーム」にてパンやウインナー作りなどを体験、また子牛に餌をあげたり、乳搾りをするなど貴重な酪農体験をしていただいた。それぞれの障がいや希望に合わせて体験してもらい、自然を感じたり、動物に癒やされたりなどの貴重な体験を通じて、その後の生活の楽しみを広げることができ、利用者の新しい一面を引き出すことができる支援に繋げていきたいと考える。
17	（社福） 大阪福祉事業財団	あさひ希望の里	100,000	100,000	30	平成 30 年 11 月 13 日、**「利用者日帰り旅行」の実施** 利用者自治会の役員が、実施に向けて行き先や企画を行い「天保山ハーバービレッジ」に日帰り旅行を実施した。利用者とともに職員やボランティア、実習生も一緒になって楽しい思い出が 1 つ増えた。自治会役員もみんなに喜んでもらい達成感を味わうことができたとともに、みんなのために頑張るという意識が高まった。今後も、自治会からの要望でみんなが楽しめる活動に取り組んでいきたい。
18	（社福） 障友会	デイセンターフレンズ	100,000	100,000	10	平成 30 年 11 月 22 日、**「「創立 20 周年記念事業」の開催** 無認可作業所として、設立され今年度で 20 周年を迎えた。20 周年記念パーティーではスライド上映を行い来賓の方々も映っており、大変喜んでいただいた。また、後日 DVD にして配布も行った。発表会、茶話会の実施、記念品のタオルを製作、法人各事業所へ出向いて配布し、他の事業所との交流を図った。今までの歴史の重みを感じながら次の 30 周年・40 周年に向けて、皆さんとともにゆっくりと歩んでいきたいと考える。
19	（社福） 育成福祉会	総合支援センター さくら	50,000	37,620	2	平成 30 年 11 月 22 日、**「障がいのある人たちの意思決定と社会参加のための余暇支援」の実施** 事前に京都水族館か鉄道博物館のどちらに行きたいか、また、何をしたいのかを個々に聞き取りをさせていただいた上で公共機関と公共施設を利用することでの社会マナーの取得と社会参加の促進、お土産を買うことによる買い物体験と金銭管理の経験をしていただいた。また、ボランティアの障がい理解を深めていただくようにした。体調不良者が、4 名出たため、当初の助成金より支出が減額となった。
20	（社福） 四幸舎和会	くりのみ園 （おおざとの赤いやね）	100,000	100,000	57	平成 30 年 8 月～11 月、**「公開講座・実践報告会」の実施** 法人スタッフはもちろん、地域や関係機関が障がいのある方のより良い支援、権利擁護、また地域貢献を目的として法人として実施、今回で 5 回目となった。今回は「自閉症支援を見つめなおす」をテーマに公開講座を 2 回、最後に実践報告会という内容で実施。企画をより良いものとするため専門分野の講師を招き、会場は参加者が参加しやすい会場確保を行った。

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
平成３０年度支部活動等助成事業実施支部一覧

	法　人　名	支　部　名	平成２９年度		加入者数	平成２９年度支部活動等助成事業報告（概要）
			希望金額	助成金額		
21	（NPO） リバティ・のぞみ	てんとう虫	100,000	100,000	8	平成 30 年 12 月 1 日、**「利用者・家族・職員交流クリスマス会」の開催** 利用者、ご家族・職員の三者の交流を通して、より良い利用者支援を探ることを目的に実施。行事としては利用者音楽発表、ビンゴゲーム、サンタのプレゼント、ボランティア出演、食事を通しての三者懇談を行った。成果として全員にこの企画を楽しんでいただくことができたと共に、三者交流を通して利用者の個性等をより深く観察することができた。また、事業所の発展に団結ができた。
22	（社福） 大阪聴覚障害者 福祉会	あいらぶ工房	100,000	100,000	6	平成 30 年 12 月 5 日～6 日、**「利用者一泊旅行」の実施** 姫路方面利用者一泊旅行の実施。日頃集団行動する機会が少ないため、重複障害を持った者同士、お互い助け合いまたボランティアとの交流や旅先での観光・体験等から、対人関係や社会性を学ぶ場とするために実施し、集団行動や社会性を育むことができた。助成事業の活用により、利用者の負担額軽減が図られた。
23	（NPO） 虹の会	れすと	100,000	100,000	9	平成 31 年 1 月 5 日 **「交流・親睦新年会」の開催** 開設して 3 年目を迎えた。普段会うことのできない保護者の方や利用者、職員の交流と親睦を深め、今後の利用者支援の充実につながることを目的に実施。事業所の財政状況も非常に厳しく、助成金により食事やイベント内容の充実が図れ、参加者も大満足されていた。
24	（社福） 路交館	うぃず滝井	100,000	100,000	8	平成 30 年 10 月 19～20 日、**「一泊利用者旅行」の実施** 昨年度の帰りは交通機関を使った経験から今年度は往復交通機関で行く目的をたてた。今年度からは自分達で行先から移動手段を考えて取り組んだ。イメージ作りから始まり毎週、メンバー旅行会議や全体説明会を進めてきた中で自分達の役割を獲得できた企画と感じた。今後、この取組みを続ける中でどの様な展望が生まれてくるか支援していきたい。
25	（社福） 信貴福祉会	ひばり作業所	100,000	50,000	3	平成 30 年 9 月 6～7 日、**「施設一泊旅行」の実施** 利用者を普段の所属班をベースに 5 つのグループに編成し、旅行を行った。グループごとに、普段あまり関わりを持つことが少ない利用者同士、楽しい経験を通じて関わりを持つことができた。また乗り物に乗る、動物などを鑑賞する、食べ物を作るなど利用者にとって普段経験できない事を体験することで、新たな喜びに繋がっていった。普段と違う場所で、違う経験をすることは利用者にとって新たな喜びや楽しみに繋がった。
26	（社福） 路交館	桜の園	100,000	100,000	34	平成 31 年 1 月 26 日、**「冬の地域交流」を開催** 従来より「地域と共に」をモットーに通常の利用者さんの活動として、廃品回収や機関紙のポスティングなど地域に密着した活動に取り組んできた。今回、地域を巻き込んでたくさんの人々に桜の園に来てもらい障がいを持った人たちとの交流や地域のつながりを大切にしたいとの思いで開催した。これからも地域の方々との交流を続けていくことが必要で大切だと考える。今後もこのような祭を続けて沢山の方に来てもらい理解を広げていけたらと思う。
27	（社福） いずみ野福祉会	シュレオーテ	100,000	50,000	3	平成 30 年 9 月～平成 31 年 2 月、**「こころとからだの学習会（全５回」の開催** 公開セミナーとして青年期の障がい児者を対象に性教育を実施。障がい児者への性教育については言葉の説明だけでは伝わりにくいことが多い。学校での取り組みもばらつきがある。性教育の大切なポイントの一つに自分の体のことを正しく知ること、異性の体のことを知ること、そして男女が思いやりを持って接すること、セルフプレジャーは悪いことではなくルールを守って自分で楽しむことなどがあげられる。こういったことを系統的に学ぶ機会を提供できたことは大きな成果であったと考える。

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
平成３０年度支部活動等助成事業実施支部一覧

	法　人　名	支　部　名	平成２９年度		加入者数	平成２９年度支部活動等助成事業報告（概要）
			希望金額	助成金額		
28	（社福）摂津宥和会	摂津市立 ひびきはばたき園	50,000	50,000	5	平成 31 年 2 月 16 日、**「第 18 回つくっ展と輝けコンサート」の開催** 作品展、コンサートの実施。作品展では利用者作品の出品を行い、作品を通じて来場者に日頃の訓練や活動に対して理解を深めていただいた。また、コンサートでは、地域の人々と共に楽しめる交流や相互理解の場として展開することが出来た。今後も継続し、地域福祉の啓発に努め、障害のある人が地域で安心して暮らせる社会の実現を目指したい。
29	（NPO） ネクスト	ネクスト	100,000	50,000	5	平成 31 年 2 月 12～17 日（日）**「自然・生き物・女性たちに焦点をあてるスペース展 in enoco」の開催** 生活介護事業所「スペース」の開設５周年にあたり、展示会を開催した。利用者の作品を展示することにより、利用者が作家として活き活きと来場者と話し、また、来場者も作家とその作品のファンになっていただくことが出来た。作品の２次利用の提案などもいただき、新たな可能性を感じることが出来たと共に普段支援される側として生活する中、自分たちの活動で人に感動を与える喜びを得ることが出来た。
30	（社福） 大阪府障害者 福祉事業団	地域生活総合 支援センターきらら	100,000	1,00,000	18	平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月、**「発達障がいと職場環境（本編）」の DVD 制作** 障がい者の雇用・就労ニーズが高まっている中で、障がい者が「働き続けるための一助」となる為のツール開発を目的に「発達障がいと職場環境」の DVD を制作。また、就労訓練の場において、職場内における SST をおこなうことができることも目的とした。この DVD が、新たな支援のツール（技術）となって、多様化するニーズに答えることで、事業所の安定的運営と良質なサービスにつなげたいと考える。
31	（社福） フォレスト福祉会	風の森 （柏原作業所連絡会）	100,000	100,000	11	平成 31 年 2 月 22 日、「**KSR 大文化祭」の開催** 柏原市の 7 事業所で作る「柏原作業所連絡会」合同の文化祭を開催。今年は 10 回目を迎え、大阪教育大学生による音楽鑑賞会を 2 部構成にて実施した。利用者、職員合わせて 120 名の参加となり盛況であった。他の施設との交流も図ることができ、参加者からダンスや歌の要望があるため、引き続き継続して同様の企画で次回も企画することとなった。
32	（社福） そうそうの杜	そうそうの杜	100,000	100,000	77	平成 30 年 10 月～平成 31 年 3 月、**「就職支援のための利用者聞き取り調査」の実施** 外部の専門家に依頼し、就労支援事業において、利用者からみた就労継続のしやすさとなる要因や、継続のしにくさとなる要因について聞き取り調査を依頼した。結果として「作業負荷を下げ、職務のサポート体制を整備し、職務や人間関係について相談しやすい体制を作っておくこと」が重要であることが示され、就労し続けられる職場環境の整備について知見を得ることができた。
33	（社福） ユウの家	チャレンジハウス どんどん	100,000	50,000	2	平成 30 年 11 月 2 日、**「利用者日帰り野外活動」の実施** 親睦と社会ルールの学びを兼ねて、野外活動を実施している。今年度は、観光バスにて京都タワーと京都水族館に出かけ交流を深めることができた。 また、日常から離れて皆と一緒に刺激や興奮が味わえた。
34	（社福） バオバオ福祉会	えるで	100,000	100,000	30	平成 31 年 3 月 21 日、**「バオバブとみんなの WA2019」の開催** 毎年、地域の方との交流および啓発、情報発信を目的に開催。今年度は約 1,000 名の参加があった。イベント会場では餅つき、ゲーム、自主製品販売、関係団体による出店、ステージでは手話歌披露、ダンス等が行われ、このイベントを通じて、地域とつながりバオバオの理念である『障がいのある人もない人も共に地域でいきいきと』を実現することができた。

理 念

知的障がいのある方が「輝いて生きること」を支援します

知的障がい児者・自閉症児者、家族のくらしを、
各種の事業と補償制度で支えます

大阪知的障害児者生活サポート協会は、全国知的障害児者生活サポート協会と連携し、助け合うという互助の精神を柱に、知的障がい児者・自閉症児者の皆さまをかけがえのない存在として捉え、より豊かな生活が送れるよう支援しています。

事 業

支援に係る事業
その人らしく「生きること」を支援

- 日常生活支援
- 就労生活支援
- 権利擁護
- スポーツ振興　等

支部活動等助成事業
支部・地区別ブロック活動の促進

大阪生活サポート協会に入会する支部（施設・事業所等）及び地区別ブロックが大阪生活サポート協会の目的に適った事業を実施する場合に助成しています。
平成 30 年度は 34 支部へ助成しました。

表現活動支援事業

支部を利用されている方、地域で暮らしておられる方が絵画、手芸、粘土などの作品を発表する機会をつくっています。

支援者のサポート
人材育成

- 調査研究
- 研修会の開催
- その他

補償制度
AIG 普通傷害保険

大阪生活サポート協会にご入会いただくと補償制度をご利用いただけます。

■生活サポート総合補償制度
引受保険会社：AIG 損害保険株式会社
保険代理店：ジェイアイシーウエスト株式会社

平成 30 年度支部活動等助成事業報告書

令和元（2019）年 6 月　発行

発行人　　安本 伊佐子

発　行　　一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会

〒542-0012 大阪市中央区谷町 7 丁目 4 番 15 号

大阪府社会福祉会館内

TEL 06-6764-6889　FAX 06-6770-5988